

# 過疎地域における定住の意向と生活機能に関する研究

公共システム研究室 新宅 基紀

## 1. はじめに

過疎的な集落を抱える多くの自治体においては、定住人口の確保が重要な課題となっている。そこで、本研究では、既往研究・文献の調査を行い、定住に影響を及ぼしうる生活機能を、生活環境のあらゆる側面から抽出する。それをもとに、住民へのアンケート調査を行うことで、重要となる生活機能の要素を明らかにし、生活機能が定住の意向に及ぼす影響を検討する。

## 2. 定住に影響を及ぼす要因

人々の定住の意向に影響を及ぼすメカニズムを図1のように想定した。本研究では、その中でも定住の意向に影響を及ぼす主要な要素である生活機能に着目し、生活機能と定住の意向の関連について明らかにした。その際、生活機能を網羅的に抽出するために、国際生活機能分類<sup>1)</sup>を参照した。

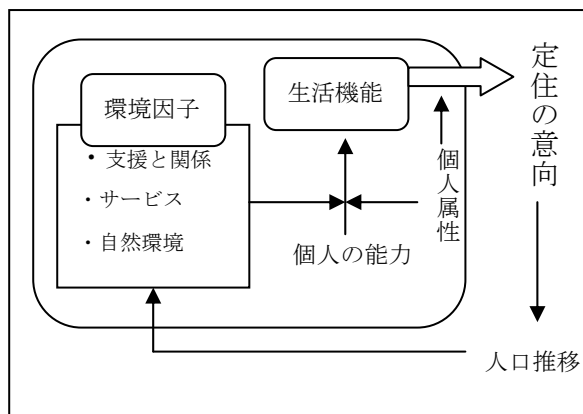


図1 定住の意向に影響を及ぼすメカニズム

## 3. 定住の意向と生活機能との関連の分析

岡山県真庭市、鳥取県八頭町・若桜町、京都市大原の3地域においてアンケート調査を実施した。そのデータを用いて年齢別、集落規模別に集計・分析し、定住の支障となりうる重要な生活機能を検討した。その結果、「除雪が大変」、「獣の

出現が多い」、「集落活動が衰退」、「仕事がない」、「医療施設・サービスが不十分」、「娯楽が少ない」、「移動が困難」が、どの地域にも共通して回答率が高いことが分かった。

さらに、各々の生活機能が定住の意向に影響を及ぼす差異をオーダードロジットモデルを用いて分析した。真庭市において年齢別に分析した結果の一例を表1に示す。ただし、表中の例えば「医療」は、上記の「医療施設・サービスが不十分」に対応している。分析する際、定住の意向への影響の関数を以下の4変数で構成した。これは、年齢別・集落規模別の集計において回答率の高かった上位4つの要因を用いている。ここで $x_i$ は、当該の生活機能が定住に支障となりうるか否かを示す変数である。

$$V = \alpha_1 x_1 + \alpha_2 x_2 + \alpha_3 x_3 + \alpha_4 x_4 \quad (1)$$

表1 65歳以上における分析結果

$\alpha_1$	$\alpha_2$	$\alpha_3$	$\alpha_4$
医療	除雪	集落	獣
-0.66 (-2.86)	-0.73 (-3.30)	-0.34 (-1.35)	-0.04 (-0.15)

表中の( )はt値である。

$\alpha_i$ は各要因が定住の意向に影響を及ぼす度合いであり、絶対値が大きいほど影響は大きい。この結果より、65歳以上の人々にとっての定住に強く影響を及ぼす要因は、除雪の大変さや医療の不備であることが明らかとなった。

## 4. おわりに

今後は、生活機能の水準を定量化し、定住に関わる限界水準の導出を試みたい。

## 参考文献

1) 障害者福祉研究会編:国際生活機能分類, 2002.